

第1回市民公開講座 「誰もがなりうる『ひきこもり』の正しい知識」報告書

アンケート結果

1 回収状況

会場では61名、Webでは48名であった。すべてアンケートの回収率は会場61名(88.4%)、Web48名(57.1%)の計109名であった。

2 参加者の基本情報

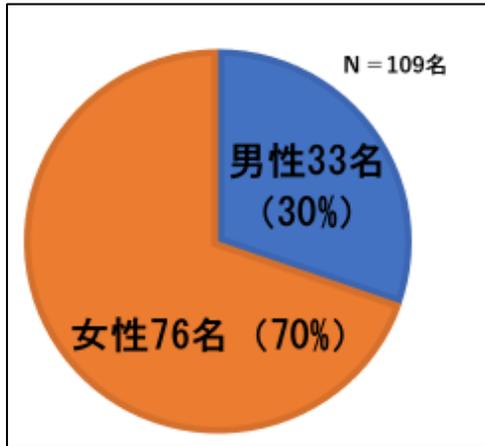


図1 性別

1) <性別>

「女性」76名、「男性」33名であった(図1)。

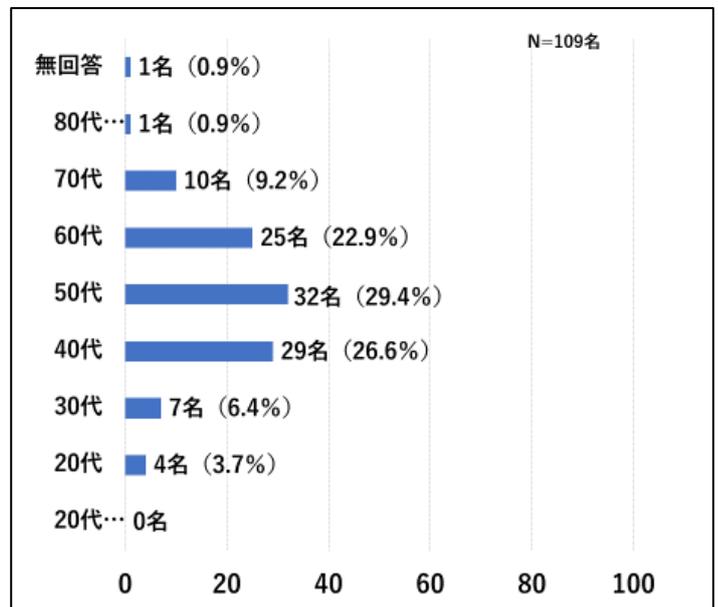


図2 年代

2) <年代>40~60代にかけての年齢層が7割以上をだつた(図2)。

3) <職業等>

「家族」「医療職」26名)が最も多く、「行政」15名、「福祉職」13名、「一般市民」9名、「教育職」5名、「生きづらさを抱えた本人」3名の順であった(図3)。

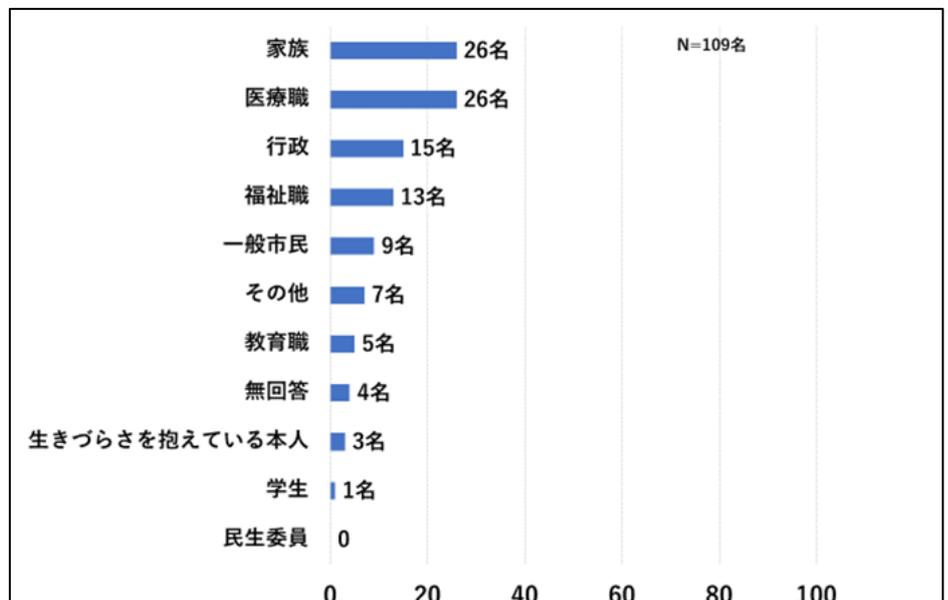


図3 職業等

3 <公開講座についてどのように
 知りましたか> (複数回答)

「所属先での案内」が最も多く 32 名であった。次に、「ポスター・リーフレット」が 29 名「ホームページから (宇部市・山口大学)」が 18 名の順であった (図4)。

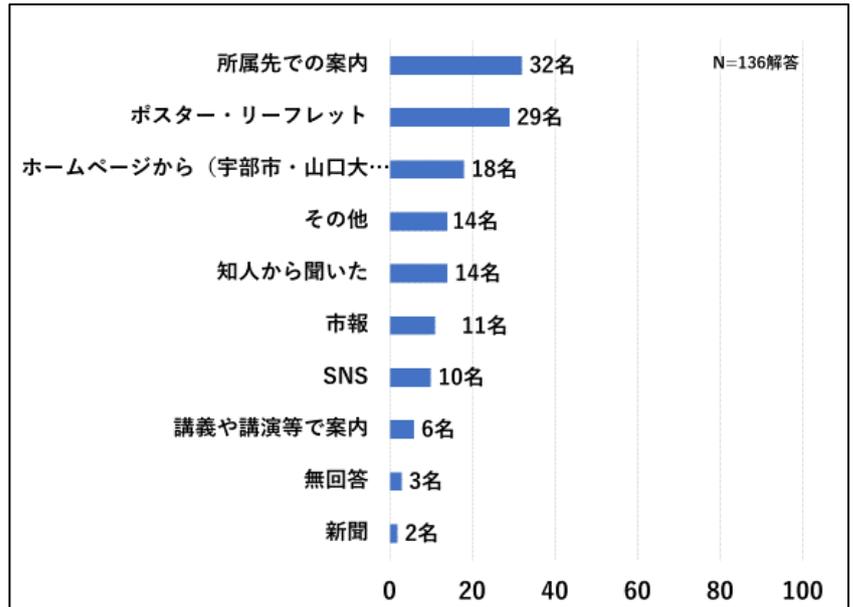


図4 市民講座についてどのように知りましたか

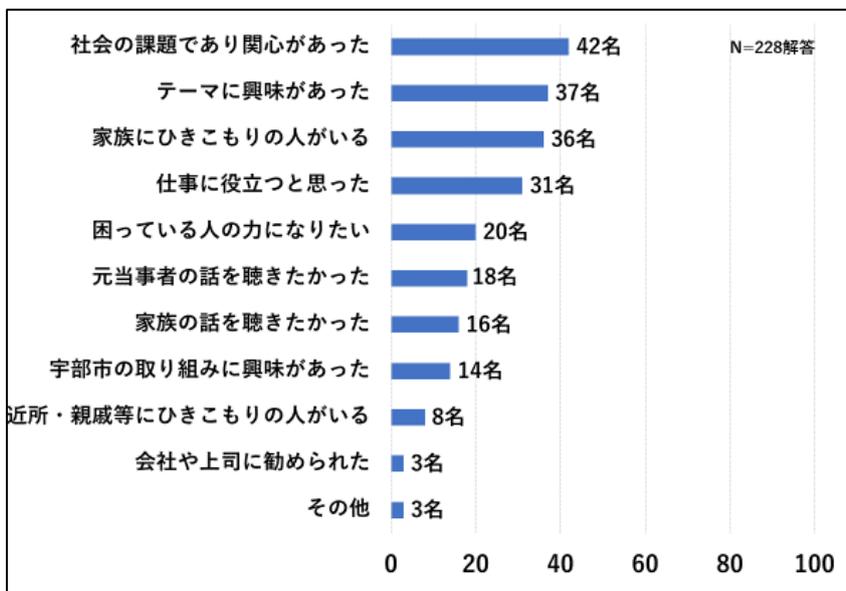


図5 参加した理由

4 <参加した理由> (複数回答)

最も高かったのは「社会の課題であり関心があった」42 名であった。次に「テーマに関心があった」37 名「家族にひきこもりの人がいる」36 名、「仕事に役立つと思った」31 名の順であった (図5)。

5 講演及びパネルディスカッションの内容についての感想

1) <講演について>

「非常に良かった」が 79 名で、「良かった」が 26 名の順であった (図6)。

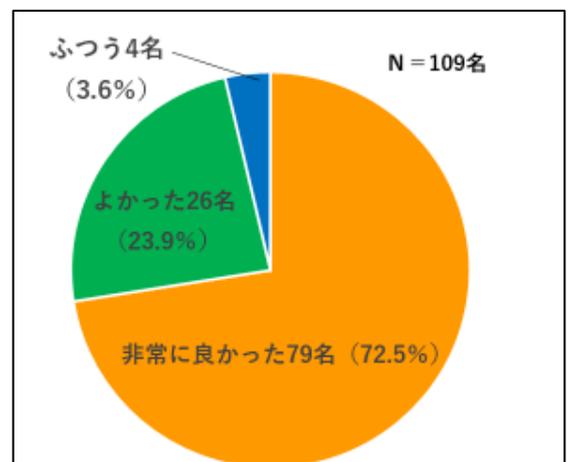
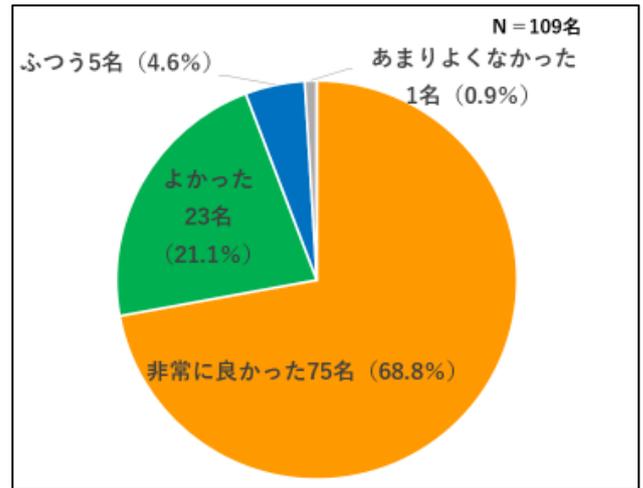


図6 講演についての感想



2) 〈パネルディスカッション〉について
 [非常に良かった] が79名で、[良かった] が23名であった(図7)。

図7 パネルディスカッションについて

3) 講演の感想については、60の記述があった。その代表的なもの

具体的な事例を用いての説明がわかりやすかった
本人の声や家族の声がたくさん紹介されていたが、いろいろな取り組みについてきちんと振り返りをされているので信頼感の大きさを感じた
実際に基づいた分析に、知らないことが多く、とても参考になりました
SDS支援の実践に基づく内容が良かった
ひきこもりの家族の気持ちが変われば、本人も気持ちが変わる。そのため、本人の「生きづらさ」を理解し、家族が本人に寄り添った支援が大切だと学ぶことができた。
親として対応に問題がある所を気付きました。
ひとりひとりの人格をどこまでも尊重する事の大切さを気づかせて頂きました。
まだ、引きこもりに関して誤解などがあると思うので、死ななくても居場所があるということと、この世界は決して地獄ではないということをもっと多くの人に伝えてほしいです。
「ひきこもり」についてのイメージ、これまでの自分の理解がネガティブで浅いものであったことが分かりました。

4) パネルディスカッションの感想については、59の記述があった。その代表的なもの

元ひきこもり当事者とひきこもりを持つ家族が登壇し、自らの体験や心情を述べたことへの感謝
当事者の方のお話がきけてわかりやすかった。
苦しんでいる人がいれば何がこの人は1番苦しいのだろうかと話をしたり、尋ねたりしながら、その人に寄り添いたいです。孤立しないように少しでも支えたい」
現在ひきこもりに悩んでいて当事者の声が聞けて良かった
当事者のお話を始めてきて、周りの環境や出会う人の影響を感じました。もっと勉強していきたいと思います。
切実感が伝わってきた。説得力があります。
本人の苦悩、家族の心の葛藤の生の声、そして適切な支援を得た時の喜び、非常に響きました。
支えがあるから働けるとい言葉が大変印象に残り、継続支援の大切さを学ぶことができました。

6 ひきこもり及び支援に対する理解度 (図8)

下記①～⑤に関して言えば、[とてもそう思う][ややそう思う]の肯定的な回答は、9割を超えていた。一方、⑥の結果についていえば、他と比較して若干低かったものの、約7割が肯定的に回答していた(図8)。

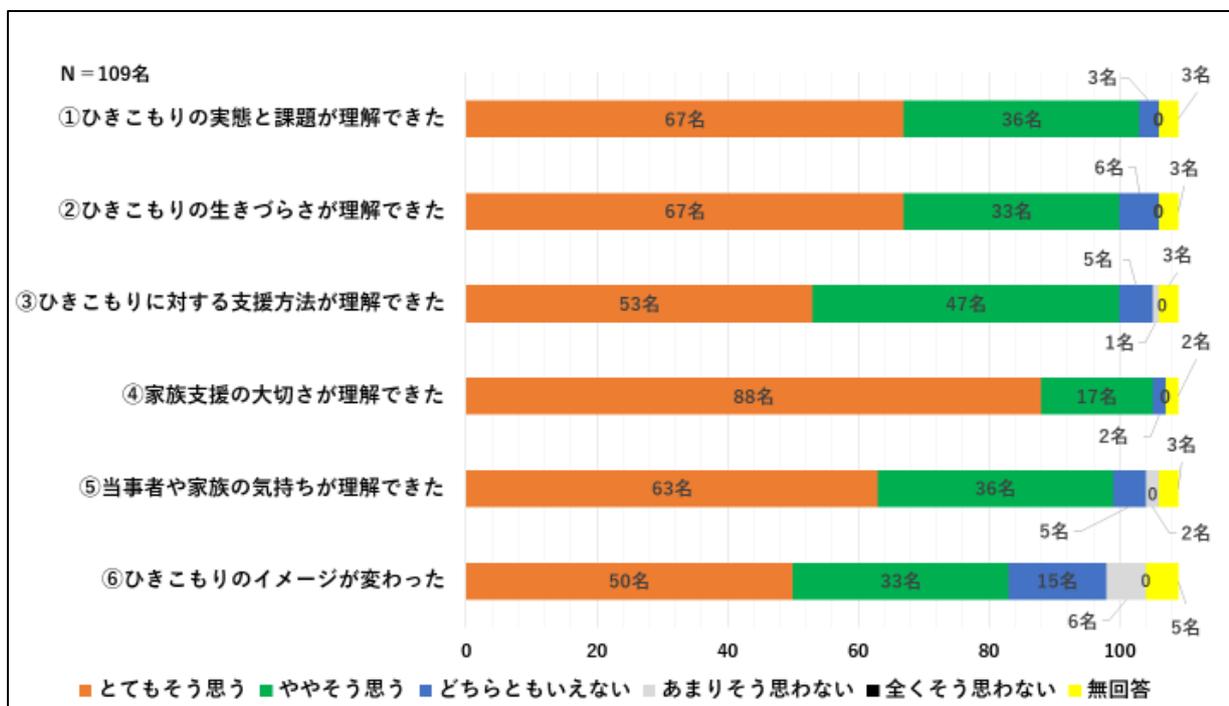


図8 ひきこもり及び支援に対する理解度

5) 今回の講演で一番印象に残ったことについて

79の記述があり、「パネリストの声」、「8050」問題、ひきこもりが「長期化する理由」など、また、支援に関する多くの感想があった。その代表的なもの

パネリストの声。実際に一連の経験を振り返って話されるのを聞く機会は少ないので、参考になった。
親の対応の仕方、当事者の方の気持ち、貴重なお話をきかせていただきありがとうございました。
8050問題。ていうのは誰でも起こり得る事(当事者、家族として、どちらでも)だと感じ、他人事ではないのだなと感じた。
パネリストのお話は自分の子と重なり、暖かく見守りたいと思います。私も変りたいです。
ただ待つだけでは解決は難しいこと、親も本人へのかかわり方を学び、変わっていく必要があることに気づかされた。
困っている人はいる(困った人はいない)、氷をとかすようにあたたかい心でとかしていく。
家が一番安心できる場所であることが大切
孤立しないさせない支援。パネリストの声。

6) 山口大学と宇部市が取り組んでいる「誰一人として社会から孤立することのない地域づくりに」についてご意見やご要望等について

56の記述があり、支援の体制不足や充実への希望などがあつた。その代表的なもの

宇部市だけでなく、県全体で支援が広がってほしいと思います
宇部モデルが日本中に広がっていく事を願っています
どこの窓口でも対応できるようにしてもらいたい

当事者の家族として全国にもっと相談できる所が増えると良いです
このような市民講座を定期的に行ってほしい。
ただ寄り添うことは誰でもできると思うが、ひきこもりについて理解して、正しい関わりができる人が今後増えていくとよいと思った。支援を求めることができる人以外にも困っている人は多くいる。この層をどうサポートするか、大きな課題だと感じる。見つけ出し、介入できてやっと支援が始まるので、それまでの過程について学ぶ機会がほしい。
市長がかわって、市が前向きにとり組むようになりよかった。是非宇部市として実現、頂きたいと思います。

7) 市民講座に対してお気づきの点について

45 の記述があり、その代表的なもの

行政がやっていることは見えないことが多いが、大学と連携すること、このような講座があると分かりやすいし、一緒に取り組んでいきたいと思える
宇部市には 2000 人近くのひきこもりや予備軍の方がいると知り、これからもっと関心を持って勉強して行きたいと思いました
こういったひきこもりの講座を度々開いて欲しい。家族の関わり方を教えてほしい
本人の生きづらさを理解する事に努めていきたいと思えます
これからの将来、ひきこもり支援に積極的に関わっていきたい
専業主婦も『心のひきこもり』になりやすいと思う（家にしぼられている感じ）。こんな私でも子供を助けてあげられるでしょうか
資料はとでもわかりやすく（イラスト、色分けなど）目にとまりやすいので非常にありがたく感じます。
参加して良かったです、自分も悩んでいる人、困っている人のために尽力したいです。山根先生のコロナだからではなく、コロナだからこそ、人と人とのつながりを強くして孤立しないようにしたい。貴重なお話たくさんありがとうございました。

5. アンケート結果より

以上のアンケート結果から、参加者のひきこもりに対する関心や学習意欲の高さを感じると同時に、記述に関する内容では、参加者自らも支援を求めている現状があることが分かった。年代は 40～60 代にかけての年齢層が 7 割以上を超えていたが、若年層の参加者は少なかった。職業等においては、医療職、福祉職等の参加が多くみられたが、教育職や民生委員は少なかった。

今後は、参加者の支援を求める切実な声に応えるべく、SDS 宇部モデルが、宇部市だけにとどまらず、全国に広がり、多くの困っている人々のための支援の一助となるように、このモデルが骨子となるような支援体制づくりを進めていく。